

(1) 昭和39年8月25日

# あしたは

発行所  
静岡市馬場町九五  
森山 純一方  
社団法人日本酒曹  
防止協会  
静岡新酒互助会  
編集発行人  
遠藤 秀雄

## 互助会の発展を祈る

第二駿府病院長



溝口 正美

「酒は人類の歴史と共にある」といわれるほど古くからある嗜好品であり、現代ではどんな未開な国でもない文明国でも、酒のない国とはつては全く関係のない存在であるが、上戸に於ては、嬉しいといつては一杯、悲しいことがあつたといつては一杯、しやくにさわるといつては、さらに疲労回復に、等々と世の中の総てのことが酒を飲む理由になる。「酒は百薬の長」などと得手勝手なことをいつて「酒を飲む」うちはいいが、「心のさざの捨てどころ」などと

深酒して「酒に飲まれる」ようになると、仕事の放棄、家庭の破壊と次第に人間失格になり、酒を「気狂い水」にしてしまふ。

酒を飲んで不満や不安からのがれようとする、酔つてゐる間は自分の気持を麻痺させていることが出来るが、醒めれば元の木阿弥、目の前には不快な現実がある。さらに悪いことには酒にひたつて自分自身をごまかした後悔が追はり、苦しみは倍加し、再び酒に逃れようとする。このようなことを繰り返して、朝酒・晩酌・寝酒と四時六時中身体から酒気が絶えない状態が続くと、遂には酒気が切れると耐えられないようになる。アルコール中毒に陥つたのである。

アルコール中毒者は、世の中の経済の発展と共に年々増加している。このよりに時に「静岡新酒互助会」が発会し、飲酒のために自分を破滅に陥し、家族を苦しめてゐる人々を助けるため活動してゐることは、真に嬉しいことであり、私も全面的に協力していきたいと思つてゐる。

## 「あしたは」に

寄せて

具之養心荘院長



田原 幸男

遠い本当の昔のように思える私の少年期の印象の中に、今も残る癡患者の相貌がある。田舎の青い麦畑の中をチリンチリンと鈴を鳴らしながら、通つて行く道路の姿は、思い出してすがすがしい一編の絵であるが、それと同時に、田舎の川辺に、橋のたもとに小屋住居をしていた癡患者の姿は、地獄絵であつた。そして青年期の印象は、結核で死んで行つた幾人かの相貌である。寮生活を共にした

仲間が、血を吐きながら生ける骸骨となつて横たわつていた姿は、又地獄絵であつた。そして更に大学を卒業して、私が、私の専門コースを現在の道に選んだのにも、それなりの若い時代の情熱があつた。それは、次の地獄絵が若にあふれる精神障害者に連想されたからに他ならない。気の毒な病氣も数えあげれば決して数えきれないが、アルコール精神障害や、それまでに行かなくとも、アルコール嗜癖のために、一家が悲劇のどん底に落ちてゆく人々を見る時の悲しみは、医師としての私自身の深い悲しみでもある。なんとかしてこの人を救いたい、そしてその一家の人々をも併せて救いたいと願う。今更驚山さんがわざわざ訪ねて来られて、こうした人達のために尽力したいとの真面目なお話を承り、本当のところ、私も感激してゐる。蓋ながら出来る限りのことはいしたい。真面目な発展を祈つてゐる次第である。こうして、これは多くの入達の矢張り善意や協力がなければ、なかなか成り立ち難いものであると思はれるので、一編多くの人々との仕事や、企ての真意が理解され、協力が得られる日早く来ることを心から祈つてゐます。そして、この善意の入達の夢が実現される日の一日も早く来ることを併せて祈る次第です。

### 発行のことば

鷺山純一

十年余り、酒の魔力に引きまづられて来た私が、強く泥沼から這い出し、自身の苦しい体験を伺と小生かして、現在苦は苦しんで居られる方々と共に苦しみを分かち合ひ、**「静岡断酒互助会」**を結成しましたのが本年三月でした。永く自身との斗争より解放され、由がたりなりに酒のない生活に馴れ、さへやかながら希望を持つた生活を送れる現在の心境に到達するには、その過程に於て随分厚い年月を空費し、家族を苦しめ、親戚友人知人近隣その他多くの方々に、信用は地に落ち、自己破産と劣等感に處まれる生活を繰り返して来ましたが一昨年十一月、八丈島断酒療養所に於て、清浄な自然に包まれた環境に於て、同僚と共に開墾に汗を流し、収穫の喜びを味い、生まれて始めて自然の尊さを難たさを知ると共に、愚かな自分の過去を振り返り、残された人生を幾分なりとも有意義に過ごしたいと考え始めたのは渡島後三ヶ月程経つた時でした。放縱怠慢な生活に依つて衰え切つた心身を鍛え直す絶好の機会と思ひ、以後体力の続く限り身体を酷使し何処迄やれるかを自身で試して見ま

した。半年後には少しづつ、自負らしいものを自覚出来る様になり断酒な島民と自然と心を通じ、昨年八月帰宅しました。勿論私の今日あるは自分の力ではありません。家族の忍耐と周囲の温かいお計ひ、先輩の方々の御指導に依るものと存じます。そしてこの会の方々の共進し御協力下さる善意の心。今後の力も忘れずは出来ません。今後同志と共に、命ある限り、益々増加を予想される酒害に苦しむ方々の為により、良き相談相手として恥づかしからぬ生活態度を固め、会員同志互に手を取り励まし合つて明るく家庭の建設に努めると共に、社会浄化の為微力を尽す所存であります。此処に当り、会員有志の御尽力と、広く社会の方々の御力添えに感謝し、今後この会報を会員皆様のもとに送し、ご承知を申し上げます。心より御願ひ申し上げます。

第七回集會を次の通り開催いたします。家族ぐのみ悩み苦しみを分かち合ひ、明日への明るい健康な生活の糧として行話したいの場として育てて行きたいたいと思ひます。お気軽に出席して下さい。

九月十三日(日)  
午後一時〜四時  
集會日  
中央公民館

### 療養所建設を われわれの手で

高天三の療養所生活記にある「国立療養所久里浜病院」は、日本におけるアルコール中毒病院として唯一無二のものであり、こうして専門の療養所が全国各地に建設されることをひたすら願うところでありますが、一朝一夕にしてこの希望は実現しそりもない。そこで過般来鷺山、児玉の両氏が中心となつて、なんとか我々の手で実現させたい、いろいろ奔走及び、建設候補地に富士の裾野を選らび、酒害防止協会で土地買収と云う具体的段階に入つた。残された問題は静岡断酒互助会において療養所の建設と云うことになつたわけで、この建設資金の募金について、広く各階層のご理解とご協力を御願ひすることになりました。いかに願ひの皆様にまわり頂くことにならぬことと思ひますが、よろしくお願ひいたします。

### 主 転 倒 子

「紅葉をたいて酒をあたたまむ」とか、歪に詩歌をしたためて流れて居れば、下流の歌人がこれを拾つて、その歌を賞美し、これに酒を注いで飲んだのが「お流れ頂戴」の起源となつたとか、或は今に伝わる黒田節のように、斗盞を傾けて各増日本号をせしめとつた有名な逸話など、酒にからまる風流や豪快な物語りは昔から数多く伝えられてゐる。我々もまた、かつては酒豪として人に驚嘆の眼を見張らせ、自らも得々としてそれに任じ、遠来の客をもてなすに酒をもつてし、旧交をあたためるに盃を交し、昏さ悲しみにつけ、人生の大半を酒とともに生活し、「酒呑童子(しゆてんどうじ)」としての面目躍如たるものがありました。

### 入 会 案 内

酒をやめようとして止められない方、酒をやめさせたいでもご入会出来ます。

一、申込場所 静岡市馬場町九五  
静岡断酒互助会  
一、費用 毎月二百円  
一、正会員 毎月三百円  
一、特別会員

しかしながら、いつの間にか飲むべき酒に吞まれて、遂には酒の下僕となり果て、主客は完全にその位置を異にしてしまつたわけですから、この会報を刊行するにあたり、「主客顛倒」にならんで、「主転倒子」の欄を設けて、毎号自由奔放の記事を掲載することにしました。勿論会員からのこの欄ご投稿を大いに歓迎いたします。

連載

アル中という名のもとに

国立久里浜病院

アル中病棟で

高木 学

傾か百日とはいえず、住み慣れた病棟、アル中と云う淋しさのどん底に端をながら過ぎていた数々の思い出が――それを見送っていた人生のいまわしい悪夢との戦いの日々がよみがえる。

人それぞれに秘めたるものは、悩み多き人生の汝々とはいえず、日々自覚によりアルコールの泥沼にもがき苦しんだ、暗い過去を拭いて去るべく、やがて新しい人生へ旅立つとする。社会復帰への明るい希望を抱きながらも、心の隅には自信と不安が交錯する。

私は、日頃愛唱している詩々雑草を口ずさんだ。ソクややはり俺は雑草になんたくないたく、だが雑草のもつ根柢さ、そういう異性は今後つ私の人生には不可欠のものである。

退院。その日は間近かに迫っている。その日には、退院者への祝賀と来客への期待をこめて、見送る人達の目遣しを背後に、静かに病棟を去ろうとする者の、何とも

いえない感激と、特別の情が湧き出るのである。そしてその時、病院における生活の「コマ」が、極めて正確に、強烈に印象づけられながら頭をよぎるのである。私は、これら

を生涯のうち、こころ毎に思い起すであろう。 願ひれば、五月中旬、爽やかな初夏の風は快よく肌を浸み入り、新緑豊かな季節であったが、そういう自然の季節を心憎に受けとめるだけの豊かさも、余裕も失われたまま、久里浜病院アル中病棟の門を叩いたのであった。

転落の人生。そこには孤立感、自信喪失、自己嫌悪等精神衛生上極めて不健康な要素が同居する。それに加えて、因果応報として招いた交通事故が、身体的苦痛として重くのしかかってくる。更にアルコール禁断症状は、容赦なく平静に立ち戻ろうとする心情を乱すのである。

れるのである。 一週間はすれば、精密な生化学検査も終り、一部の身体的故障者を除いても、散歩も、作業も、運動も許されて、心的にも集団における一員という自覚がもたれるのである。この病棟の大きな特色の一つである開放性は、他の精神科病棟に類を見ず、広範囲な病院敷地とともに、その効果を非常に大きくしている。

前頭は三浦半島の先端刺崎と房総の山並みに懐深い東京湾が広がり、青松白砂の明美な風光を展開し、真は新緑豊かな丘が続いている。

はるかなる町に続く、白浜の似て緩やかな浜、九十九里に似て甘い海、舟着てはるかなる房総の山脈、僅かけむりて千駄崎の、沖を白波けたてゆく白き船腹、きょうも行き交う

入院患者の殆んどは、まず最初この自然そのものの中へ自己を置く存分だけ出して、求し方を想い、時のたつにつれて行く方をも考えるのである。

アル中病棟といえは、まず想像されることは麻薬のそれの如く、禁断による凶暴性、放心状態、栄養失調、身体的不具者、怒号等、無秩序、身体的不具者、怒号等、決してまず驚くことは、どこにもそれらしい患者は見当たらないのである。

中には、栄養不足で動く元気もなく通りつきながら、三ヶ月間に十キロも体重の増加した者もあるが、殆んどは患者の血色は優れ、思考作用も常人以上である。アルコールが切れていれば、極めて温和な紳士的な人達の集合体なのである。

職業的には種々雑多で、教師、公務員、会社員、職人、商人等あらゆる種類にわたり、年令も最低二十七才から最高六十七才の広範囲であるが、やはり三十代の後半から四十代が中心をなしている。

人生観においては、人それぞれに異つてはいるが、同じ過去を持ち、同じ悩みから抜け出ようとする共通の目的が集団心理療法を押し進めていくのである。

病棟の生活は六時の起床から始まる。洗面部屋の清掃を済ませ、六時半から十分間、ホールの会食で瞑想が行われる。七時の朝食を済ませ、ホールなどの公共の場の清掃、洗濯などがなされる。九時から十一時まで毎日作業が行われ、決して「ルマ」の名のなものでなく、心身の調整を兼ねたものであつて、前記の如く多面にわたる職内からその機能が發揮される。院内の隅には公園が作られ、土手は伐採されて、ベンチやあづま屋が憩いの場を作る。運動場が整備され、細には甘藷が繁つている。

(つづく)



### 月例集会報告

#### 第五回集会

七月十二日

#### 鷺山氏宅において

出席者十名、今回は特に、現在国立久里浜病院に於て療養中の会員高木学殿が、外泊出席下さり、体験を発表。

「アル中では特効薬もなく、手品もない事。自分でなほす外はない。昨年十二月、家族に寝られ、久里浜に相談に行つたが、当時は入院の意志なく、その儘帰宅、以後失敗を繰り返して、今年五月十一日何となく入院、充実した生活が持てる事。三月入会させて頂いた互助会のお蔭と感謝しています。現在、久里浜病院の治療方針は、全く患者の自由といつて良い程自主的な、気儘に近い自然の状態に於て、各自に自覚を持たせるといふ治療方針です。午前中二時間は自主的軽作業、午後は自由時間として野球、水泳、その他のレクリエーションに過ぐす。

「隔週 懇談会(自由な意見発表、討論) 講義(主としてアル中に関する

医学的知識)を行つています。従来の閉鎖病棟では、他力により強制的に断酒させたが、久里浜では全く患者の自主的治療にまかせ、自然環境の良さと共に、病院の自然の経営方針に依り、孤独感は少なく、病室全体に明るい雰囲気を出している。アル中治療の第一歩は自身がアル中である事、自覚する事から始まる。他力では絶対不可能であり、現在私は他人から何と云はれても気に兼ねない心境です。」と結んだ。

「遺囑殿近況報告」酒を口にする、趣味の必要性を痛感、近頃魚釣を始めた。最近では家内も外出時に対する心配もない様子です。子供も大変気を使い母の言葉の端に父の過去を責める様な言葉があると、反対に母をたしなめる程で、子供の心遣い思い考えさせられます。兄玉殿、断酒療養所建設計画及び会の宣伝等は会員一同協力し運動する必要を説かれ、過去の自身の失敗談を赤裸々に発表、一同深く同感。

「来月八月よりパンフレット程度の月報を発行する予定。それについて現在の会費一〇〇円では不足する故、来月より二〇〇円に値上する件を計り、賛成して頂く。断酒療養所建設については、第二級病院病院長の御協力の約を得て力強く愈々具体的な活動に移る。

#### 第六回集会

八月九日

#### 鷺山氏宅において

狂言にうだる此の頃、朝顔の葉も日中はぐつたりと元気がない。余程気力をしつかり持たねば、へこたれてしまふ。暑さの故か、出席者も五名、一寸淋しい感あり。然し今の運営に対する諸氏の活発な発言に終始し、内容ある集会を持てた事を感じます。

大崎殿「酒に酔うと密蔵のある若者を民生委員が我が家に引き取り世話をしていた。暫らくは真面目に過ごしたが、或る日酒を飲み、民生委員の家の物を持ち出して行方をくらましてしまった。この様な場合、若者の取り扱ひ方、その対策等、問題があり、相談する処もなく困つている家族が多数ある会として出来るだけ相談相手となり力になつて上げたい。」

決定事項  
一、毎月半会日に無任をやる事  
一口五〇〇円 九月より開始  
二、断酒療養所建設資金の件  
一口一〇〇円 会員の自由な意志により積み立てる。  
無任の利子、及び延滞金等も同資金に組入れる事。  
建設資金募金計画は二面掲載のとおり。

静岡小鳥センター

### まるか小鳥店

静岡市東鷹匠町97  
城東劇場トナリ

TEL (53) 5848

ザ 目 老 舗  
ギ 丁 子  
水 一 子  
清 菓 子

### 甘 静 舎

電話 (2) 5235

ガソリンと  
プロパンガス

### 松 永 石 油

静岡市片羽町

電話 (52) 〇三三二

